

グループビジョン2030 | 3つの注力フィールドにおける目標と実績

注力フィールドと目指す姿	社会へのアウトカム(成果)	2030年の目標	指標(KPI)	具体的施策	2024年度実績
<p><b>安全安心リモート社会</b></p> <p><b>「安全安心の新しい価値を創出」</b></p> <p>全ての人々が豊かで安全かつ安心して暮らせる社会を、リモート技術で創る</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 低侵襲で高度なロボット内視鏡手術による患者のQOL向上</li> <li>● 遠隔手術による医療の地域間格差の解消</li> <li>● 医療および介護従事者の負担軽減</li> <li>● 生産性向上・労働力不足の解消</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>働き方改革</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 時間の融通</li> <li>○ 3K作業からの脱却</li> <li>○ 実作業を伴うリモートワーク</li> </ul> </li> <li>● <b>労働力の確保</b></li> <li>● <b>全ての人々に社会参加の場を提供</b></li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難している方々の生活支援(生活の質の向上)</li> <li>● より多くの命を救う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>グローバルに広く手術支援ロボットを提供し、多数の手術に使用されている状態</b></li> <li>● <b>手術支援ロボットを使用した遠隔手術の実用化</b></li> <li>● <b>国内約200万人の医療・福祉関係者の不足(市場規模は1兆円以上と想定)の5%解消</b></li> <li>● <b>国内約400万人の製造業・サービス業等の働き手不足(市場規模は2兆円以上と想定)の5%解消</b></li> </ul>	<p>(a) 手術支援ロボットによる年間症例数/累計症例数</p> <p>(b) 遠隔手術の開発マイルストーンの着実な達成</p> <p>(c) リモートプラットフォームのアクティブユーザー数</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>操作性改善・機能向上による使いやすい手術支援ロボットの実現</b></li> <li>● <b>グローバル展開に向けた各地域における販売承認の取得</b></li> <li>● <b>手術支援ロボットによる遠隔手術の実証実験の実施</b></li> <li>● 介護ロボットの病院への導入</li> <li>● リモートによるパーソナルケア製品の市場投入</li> <li>● 倉庫や各種店舗向けロボットの開発と実装</li> <li>● ヒューマノイドロボットの実用化</li> <li>● 工場における遠隔ロボットを用いた実作業(2021年度からProof of Concept開始)</li> </ul> <p>● ドクターヘリの納入</p> <p>● 非常用発電設備の納入</p> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>手術支援ロボット「hinotori™サージカルロボットシステム」(製造販売元:株式会社メディカロイド)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 症例数:年間5,200症例以上/累計9,400症例以上</li> <li>○ 国内における胸部外科領域(呼吸器外科)への適用承認</li> <li>○ マレーシアにおける販売承認の取得および市場導入</li> <li>○ 欧州医療機器規則(MDR)に基づくCEマーク認証取得申請の実施</li> <li>○ 複数の遠隔実証実験の実施</li> </ul> </li> <li>● <b>リモートシステム開発を可能にする「Remolink Builder」サービスおよびリモートロボットで事業者とワーカーをつなぐサービス「Remolink™」の提供(継続)</b>。各種企業とのパートナー契約を拡充</li> <li>● 介護における行動計測、計測データ分析を通して、介護機器等を活用し、<b>介護現場をサポートする介護業務支援サービス事業の実証実験を実施</b></li> <li>● <b>屋内位置情報サービスをさまざまな商業施設などで導入</b></li> </ul>
<p><b>近未来モビリティ</b></p> <p><b>「新しい輸送システムで人とモノの移動を変革」</b></p> <p>人やモノが安全で素早く効率良く移動できる社会を、新モビリティで創る</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 増加する物流量に対応し、<b>労働力不足を解消</b></li> <li>● 安全な労働環境の提供</li> <li>● 人・モノが環境にやさしく、安全に移動できる社会の実現</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● シームレスな都市交通の実現(人・モノの移動の高速化・効率化)</li> <li>● 交通渋滞と物流遅延の解消</li> <li>● 災害に強い街づくり(緊急物資の早期輸送など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>物流における人手不足(国内約20万人)の20%解消</b></li> <li>● <b>新モビリティの事業化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 配送ロボット</li> <li>○ VTOL無人機(垂直離着陸機)</li> <li>○ 自律四輪</li> <li>○ サプライチェーン最適化サービスなど</li> </ul> </li> <li>● 海上輸送の自律化(MARICOプロジェクト※)</li> <li>※ Marine Collaboration Project</li> <li>● <b>スーパーシティ・プロジェクトへの参画</b></li> </ul>	<p>(a) VTOL無人機のユーザー数、総輸送量</p> <p>(b) 配送ロボットのユーザー数、総輸送量</p> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>物流チェーン最適化</b> <p><b>Phase 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 輸送・荷役機器の自律化(ラストワンマイルまでを含む自律化)</li> </ul> <p><b>Phase 2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ サプライチェーン(接続点のシームレス化:積荷乗せ替えをシステムを含めて効率化)</li> <li>○ 2030年までに海外展開</li> </ul> </li> <li>● <b>新モビリティ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2025年までに配送ロボットの事業化</li> <li>○ 2030年までにVTOLの運用、統合輸送サービス事業の本格化</li> </ul> </li> <li>● <b>スーパーシティ実現</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自治体と連携したスーパーシティ構想への参画(人の移動も含めた都市交通の全体最適)</li> <li>○ 人・モノの移動全体を管理するシステム(地域内MaaS)を構築。当社グループ他事業と有機的に連動</li> <li>○ ロジスティクス会社やソフトウェアの会社と相互の協力関係を構築</li> </ul> </li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長野県伊那市の「無人VTOL機による物資輸送プラットフォーム構築事業」を受託(継続)</li> <li>● VTOL無人機「K-RACER」の開発が日本航空技術協会の会長賞を受賞</li> <li>● 南海トラフ地震の発生を想定した実動訓練「南海レスキュー 2024」(陸上自衛隊中部方面隊主催)に参加</li> <li>● 「K-RACER」を用いて孤立した被災地への支援物資輸送を実施し、無人航空機による物資の荷揚げから荷降ろしまでを人の手を介さずに行う「無人物流輸送」に成功</li> <li>● 藤田医科大学東京先端医療研究センターにて、「FORRO」4台体制で正式稼働開始し、検体などの配送業務、看護師移動距離の削減効果を実現</li> <li>● <b>ヘリコプタによる空の移動をワンストップで提供するサービス「Z-Leg™」を提供し、自治体や国内外の旅行会社、鉄道会社などと協業。一般利用のタイミングを利用し、子供向け航空防災教室などを並行企画</b></li> </ul>
<p><b>エネルギー・環境ソリューション</b></p> <p><b>「クリーンエネルギーの安定供給に向けて」</b></p> <p>低コストで安定した脱炭素社会を早期に実現する</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水素エネルギーの価格低下</li> <li>● CO<sub>2</sub>排出削減による気候変動対応への貢献</li> <li>● 陸海空におけるクリーンな移動・輸送手段の提供</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● CO<sub>2</sub>排出削減による気候変動対応への貢献</li> </ul> <p>● バリューチェーンにおける環境負荷の低減</p>	<p><b>水素</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 液化水素サプライチェーン商用化実証の完遂</li> <li>● 国産水素の活用開始</li> </ul> <p><b>現有製品</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● より環境に配慮した製品の製造</li> <li>● トランジション期に対応する水素Ready製品の拡充</li> <li>● 製品からのCO<sub>2</sub>排出量の削減</li> </ul>	<p><b>水素</b></p> <p>(a) 当社ソリューションによる水素導入量</p> <p>(b) 当社ソリューションの水素エネルギーによるCO<sub>2</sub>削減量</p> <p><b>現有製品</b></p> <p>(a) 製品貢献によるCO<sub>2</sub>排出量の削減効果</p> <p>(b) Kawasakiエコロジカル・フロンティアズ(旧グリーン製品)の登録製品数・売上収益</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>液化水素サプライチェーンの上流から下流にいたるパートナーシップ、コンソーシアムの形成</b></li> <li>● 技術開発(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)助成事業、パートナーシップを活用した大型化技術の確立)</li> <li>● <b>さまざまな水素輸送需要に応えるべく、液化水素運搬船ラインナップを拡充</b></li> <li>● 水素燃料を搭載した鉄道車両(気動車)の開発</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ハイブリッド、電動モーターサイクル/オフロード四輪車の量産化</li> <li>● 船用ハイブリッド推進システム/電気推進システム納入</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネルギー型二酸化炭素分離・回収システムのパイロットスケール実証試験を開始(関西電力)</li> </ul>	<p><b>水素</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● JFEスチール株式会社と日本水素エネルギーが、液化水素受入基地用地として扇島の土地賃貸借契約を締結し、液化水素サプライチェーンの商用化実証が大きく前進</li> <li>● 世界初5MW以上の大型ガスエンジンにおける水素100%燃焼技術を開発</li> <li>● 製造から利用に至るまでの、サプライチェーン全体の水素の流通をデジタル管理で「見える化」し、水素をトレースできる仕組みである「水素プラットフォーム」の大分県での実証実験が完了</li> </ul> <p><b>現有製品</b></p> <p>(a) 製品貢献によるCO<sub>2</sub>排出量の削減効果:約1,905万t-CO<sub>2</sub></p> <p>(b) Kawasakiエコロジカル・フロンティアズの登録製品数:70件、売上収益:2,336億円</p>

このうち「カーボンニュートラルの推進」の詳細は▶P.45-48をご覧ください